

## 気候変動／石炭火力発電について

2019年12月21日(土) 10時～12時

日比谷公園 緑と水の市民ガレージ

担当：気候変動について/岩渕徹郎さん

石炭火力発電について/鈴木善次さん

参加者：21名

本日は年内最後の会にふさわしく、多くの方が集まり、気候変動と石炭火力発電について学び、語り合いました。このテーマについて、先日まで開催されていた COP25 の影響もあり、報道で目にしない日がないほどです。今回は『気候変動クライシス』と特集されていた『世界12月号』を読み、準備をしてきました。

始めに岩渕さんより、気候変動をめぐる動きを時系列で説明していただきながら、キーワード(COP、IPCC、SDGs 等々)と世界の動きについて理解を深めました。そして COP25 開催中、日本が化石賞を二度受賞したことに注目し、鈴木さんより石炭火力発電について賛成と反対の意見をご紹介いただきました。相反する意見や事実を知ることによりさらに考え、学ぶ機会がもたらされました。

フリートークでは、皆様が身近なところで見つけたり感じた事の紹介、新聞や雑誌で特集されていた内容のシェアなど、集まった全員が日頃からこのテーマに向き合い、考えをめぐらせていることが伺えました。

世界ではグレッタさんをはじめ、若者の環境活動に注目が集まっていますが、上遠さんはレイチェル・カーソンの『未来の子供たち』がよくぞ声をあげてくれたと仰られました。日本での例として、小川さんが偶然出会った、鎌倉市立小阪小学校の活動を紹介してくださいました。人為影響による地球温暖化など、環境問題と今出来ることを広める活動です。現実と向き合い行動する若者を応援しつつ、私自身も常に考え、行動(実践)する者でありたいと思いました。

岩渕さんが資料をまとめるにあたり、気候変動に関わる事が多岐に渡り過ぎて、どこまで調べればいいのか、と仰られていました。これこそ自然と生命の切れないつながり、ネットを表しているのかもしれませんが。私たちは改めて身近なものや行動がどう自然につながるのか学び自覚することが必要なのではないかと思います。

今回も参加者の熱心な学びと語り合いがお互い良い刺激となりました。この『思い』の連鎖がさらに広がりますように…

(長谷川 記)

## 気候変動について

世界中で猛威を振るう暴風雨（台風、ハリケーン、サイクロン）は住居、工場、農地、交通インフラ等を襲う。河川の氾濫、土砂崩れ、高潮/高波による水没等日本を含め、世界中で発生し、人命と貴重な資産を奪い、生き物たちにダメージを与えている。干ばつ、熱波（陸上&海洋）、高潮、高波、海面上昇等も加わり、都市や田園の生活者も 農漁業生活者も、生活環境が厳しい地域に暮らす貧しい人々はなおさら“極端気象”に苦しむ。次第に激化する気候変動と地球環境の温暖化との関係が判明してきた。異常気象や気候変動は昔からある。ようやく今、気候変動は地球環境の温暖化、そして人間活動の結果である（CO2 等温室効果ガス排出）ことが分かってきた。国連関連機関など、世界中の気象専門家や科学者たちが、観測し〈気候モデル等で〉実証し、多数の論文を検証し、研究と議論の末、科学的手法で IPCC（後述）設立後 30 年かけて結論を導いた。そして化石燃料（石炭、石油、石油ガス）依存のエネルギー多消費社会を変えよう、脱炭素社会を目指し、再生可能エネルギー（RE）への転換を求めた。詳細は、2015 年末のパリ会議(COP21)で採択された「パリ協定」や「気候変動に関する政府間パネル（IPCC 報告）報告書」等々にある。

そして今年（2019 年）、地球の危機を叫ぶ若者たちの行動が世界中の注目を浴びた。同年 9 月、ニューヨーク国連本部で開催された、“国連気候行動サミット”で。環境活動家グレタ・トゥンベリさん（16 歳 スウェーデン）が演説した。「あなたたちは金のこと、永遠の経済成長（おとぎ話）にばかりに気を取られ、私たちが死にかけ、生態系全体の崩壊等にさらされているのをわかろうとしていない（一部を抜粋）」などと各国首脳に厳しく対応を求めた。引き続き（2019 年 12 月）マドリードで開催された COP25（1994 年に発効した、国連「気候変動枠組み条約締約国第 25 回会議」）において、パリ協定開始（2020 年～）目前に控え、温室効果ガス削減数値目標の上積みや、削減分の評価/配分などを巡り各国の利害調整で難航し会議日程は何度も延長された。多数の環境団体やグレタさんら若者たちも集結し賑わった。世界の脱炭素方向と逆を行く日本、石炭火力発電を加速させ、脱炭素にひどく消極的な日本に非難が集まった。挙句は国際環境団体「気候行動ネットワーク」が日本に対し二度も「化石賞」を授与した。

鈴木善次さんが（高効率かつ環境配慮型と宣伝する）日本の石炭火力発電の動向、実態や評価などについて解説いただいた。タイムリーかつ大変有益であった。ご紹介いただいた 新著（かもがわ出版、気候ネットワーク編「石炭火力発電 Q&A」）は最適な参考書である。

出席された方々から、・九十九里浜は昔の面影がない（砂浜が消失した）、・乱開発により森林火災を起こすな。植林活動に励もう、・自然や生き物たちへの感性、共に生きる活動や生活態度の大切さなどいろいろの声が上がった。

最後は自説で恐縮だが、自分を含め、日本人の意識を変える必要がある。世界の動きに何周も後れか？ 日本のアニメ、スポーツ、外国人旅行者人気、挙句は、おもてなしの国、等々、自画自賛していてよいのだろうか。かつて、省エネ技術や太陽光発電等 RE 技術等で先陣を切っていたのに今その面影はない。リーマンショック後の不況や東日本大地震と原発事故等に見舞われた日本経済、そのトップリーダーたちは、既存の体制維持に固執し、日本をイノベーションが起こりにくい国にしようとしているのだろうか？ 環境変化の認識や先見性が求められる。トップリーダーたちは効率ばかり優先し、人間を重視しない国にしてしまうのか？

今こそ企業経営者達に対し、生活者（消費者）こそ己の権利を行使すべきではないか。不要なもの、環境

を害するものは購入しないと。ごみは出さない。自然環境は美しいと。政治家や企業経営者の一部は、簡単にグレタさんたちを非難するが、若者の論理や感性こそまっとうなものでないか。

世界中のすぐれた経営者（日本人経営者も）は以下の原則を既に実行している。

投資や融資をする際の ESG を。E は環境、S は社会・人権、G はガバナンス（企業統治）。環境や人権問題などに積極的に取り組む企業に重点的に投資（融資も）する。

これらに 反する企業からは資金を引き揚げるというのだ。日本の銀行や企業なども実行しつつあるとのこと。ESG に反する企業の株は売られ、借金が引き上げられる。こうして有望・有益な企業に資金が集中する。有能な若者たちよ、がんばれ！希望ある社会を開こう！

（文責：岩淵）